報告事項　エ

令和６年度英語力向上に係る外部試験（４技能型英検ＩＢＡ）の結果について

令和６年度英語力向上に係る外部試験（４技能型英検ＩＢＡ）の結果について、別紙のとおり報告します。

令和６年１２月２６日

鳥取県教育委員会教育長　　足　羽　英　樹

報告事項　エ

令和６年度英語力向上に係る外部試験（４技能型英検ＩＢＡ）の結果について

令和６年１２月２６日
小中学校課

令和６年６月１０日（月）から令和６年７月２６日（金）までの間に、中学校３年生（義務教育学校９年生）を対象として実施した外部試験（４技能型英検ＩＢＡ）の結果について、以下のとおり報告します。

○中学校３年生（義務教育学校９年生）（以下「中学校３年生」）を対象として実施した外部試験（４技能型英検ＩＢＡ）において、５０%以上の生徒が英検３級（※１）レベルに達している。技能別では、リスニング及びスピーキングの平均ＣＳＥスコア（※２）は英検３級レベルを上回り、リーディング及びライティングでは英検３級レベルに近い数値となっている。
○本年度の中学校３年生の各技能の平均ＣＳＥスコアは、リスニング、ライティング、スピーキングにおいて、昨年度の中学校３年生の平均ＣＳＥスコアを上回った。特にライティングについては１９ポイントと大きく上回った。
○昨年度２年生時の各技能の平均ＣＳＥスコアと比較すると、リーディングは１８ポイント、リスニングについては４０ポイント上昇するなど、伸びが見られる。（※３）特にリスニングにおいて大幅に力を伸ばしている。

※１　英検３級：国が示す中学卒業段階での英語力の指標（CEFR A1）の例として示される外部試験資格の１つ
国の第４期教育振興基本計画では、生徒の英語力について、中学校卒業段階で CEFR A1 レベル相当（英検３級程度）以上を達成した生徒の割合を令和９年度までに６割以上にすることを目標とするとともに、全ての都道府県・政令指定都市において、同指標を達成した生徒の割合を５割以上にすることを目指すことが示されている。
（参考）国の英語教育実施状況調査における同指標を達成した鳥取県の中学校３年生の生徒の割合
令和４年度：３４．６%　　令和５年度：５１．０%
※２　ＣＳＥスコア（Common Scale for English ）：英検協会によって作成された、英語力を示す尺度（詳細は次頁参照）
※３　中学２年生で実施する２技能型英検ＩＢＡでは、ライティング・スピーキングテストは実施しないため、経年での伸びを見ることができるのはリーディング・リスニングのみ。

１　受験実績

（１）受験校数　　５７校　／　５７校　（公立中学校・義務教育学校）
（２）受験者数　　中学校３年生・義務教育学校９年生
・リーディング・リスニング　　４，００２名
・ライティング・スピーキング　４，０１０名
※「リーディング・リスニング」と、「ライティング・スピーキング」の２種類のテストをそれぞれ実施しているため、テストによって受験者数が異なる。
（３）受験期間　　令和６年６月１０日（月）から令和６年７月２６日（金）までの期間で、学校が任意の日を設定

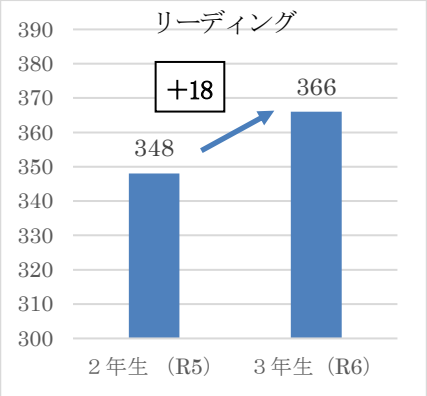
２　受験結果概要

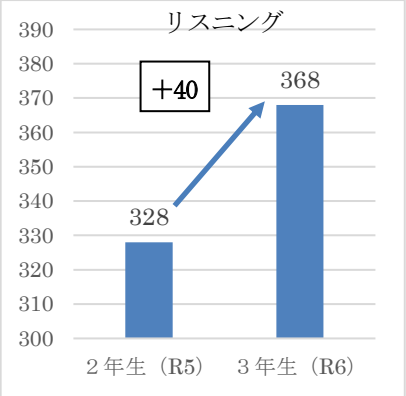
（　　）内は、令和５年度の中学校３年生の値

技能	問題内容	正答率(%)	平均ＣＳＥスコア 矢印はR5との比較	英検3級基準 ＣＳＥスコア	英検3級レベル以上割合(%)	概要（人数分布及び課題等）
リーディング	語句の空所補充	51.4(55.2)	365.6 (368.4) ↓	３７９	５１ (４７)	・多くの生徒が４級レベル後半の力を身に付けており、人数分布の傾向は昨年度と大きく変わらない。 ・「会話文の空所補充」の正答率が昨年度よりも向上している。昨年度に引き続き、「長文読解」に課題がある。
	会話文の空所補充	60.5(54.7)				
	長文読解	39.8(42.6)				
リスニング	会話の応答	55.7(53.8)	367.5 (355.2) ↑	３４９		・多くの生徒が３級レベルの力を身に付けている。昨年度よりも４級レベルの生徒の割合が減少し、３級レベルの割合が増えている。 ・昨年度課題が見られた「パッセージの内容理解」の問題の正答率が向上している。
	パッセージ（※）の内容理解	51.2(45.6)				
ライティング	内容	61.4(59.5)	364.1 (345.2) ↑	３７５	５４ (５５)	・平均ＣＳＥスコアは英検３級基準値に達していないが、６割程度の生徒が３級レベルの力を身に付けている。 ・平均正答率は「内容」が最も高く、「文法」が最も低い。質問に対して適切な内容を書くことができず０点となった生徒の割合が７%であり、昨年度（１３%）から６%減少した。
	構成	60.1(57.9)				
	語い	57.7(57.3)				
	文法	55.8(55.2)				
スピーキング	自分についてのQ&A	61.6(72.6)	353.2 (349.4) ↑	３５３		・多くの生徒が３級レベルの力を身に付けている。 ・「自分についてやり取りをする」問題の正答率が最も高い。昨年度に引き続き、初見の英文を音読することに課題がある。
	音読	43.8(44.1)				
	英文についてのQ&A	52.4(46.4)				
	イラストの描写	48.5(46.4)				

※パッセージ：英検ＩＢＡの試験問題においては、１人の話者による２、３文程度の説明文のこと。

３　令和６年度中学校３年生の昨年度からの英語力の伸び（ＣＳＥスコアの比較）





リーディング、リスニングいずれの技能とも着実にスコアが伸びており、特にリスニングの伸びが顕著である。
※中学校２年生で受験する２技能型ＩＢＡではライティング・スピーキングテストを実施しないため、経年での伸びを見ることができるのはリーディング・リスニングのみ。

＜参考：ＣＳＥスコア（Common Scale for English ）について＞
・技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）ごとの英語力を把握することが可能。また、継続的に活用することで、技能ごとの英語力の伸長度を把握することが可能。
（ＣＳＥスコアによる、英検合格レベル判定基準）

	準１級	２級	準２級	**３級**	４級	５級
４技能総合	２３０４	１９８０	１７２８	**１４５６**		
リーディング	５９８	５１１	４４８	**３７９**	３３０	２３６
リスニング	６０３	５０３	４３０	**３４９**	２９２	１８３
ライティング	５９１	５０６	４４４	**３７５**		
スピーキング	５１２	４６０	４０６	**３５３**		

４　分析及び今後の方向性

【分析】

（１）昨年度の中学校３年生と比較すると、リスニング、ライティング、スピーキングの平均ＣＳＥスコアが昨年度を上回った。特にライティングについては、大きく上回るとともに、無得点の生徒の割合が昨年度（１３％）から６％減少した。各学校で本試験の結果を分析し、「書くこと」の指導の改善が図られたと考えられる。

（２）中学校３年生のリーディング、リスニングの平均ＣＳＥスコアは、中学校２年生時（Ｒ５）と比較していずれも順調に伸びている。特にリスニングの伸びが大きかったことから、「使いながら英語を身に付けられる授業づくり」が定着しつつあり、教師が英語で授業を行ったり、教師と生徒、生徒同士の英語でやり取りを行ったりする場面が増えたことで、生徒が英語を聞くことに慣れ、リスニング力を伸ばすことにつながったと考えられる。

（３）　昨年度に引き続き、リーディングの長文読解とスピーキングの音読の正答率が低い。英語で自分の気持ちや考えを伝え合う「話すこと」や「書くこと」の指導改善が進む一方で、「読むこと」については、一語一語や一文一文の理解や内容の正誤の確認にとどまる等、目的や場面、状況等に応じた読み方を身に付けられる指導が十分になされていないことが考えられる。

【今後の方向性】

（１）必要な情報や概要、要点を把握する読み方を身に付ける「読むこと」の言語活動を充実させる必要がある。また、音読に課題があることから、発音と綴りの関係性についての指導や、デジタル教科書等を活用した音読練習等、文字を音声化する基礎的な技能を身に付けさせるための指導についても充実を図る必要がある。

（２）生徒の英語力について、英検ＩＢＡの結果を基に、経年での伸びや過年度との比較等で把握できる「英検ＩＢＡ結果シート」を本年度、学校用、生徒用それぞれ作成し、令和６年１１月２１日開催の結果分析説明会で周知を図った。各学校で、本シートを活用して教科会等で生徒の英語力について分析、検討し、学校全体で指導改善を図るとともに、生徒が自分自身の伸びや課題を把握し、自己の学習改善に生かす取組が推進されるよう、引き続き周知を図る。

（３）本試験結果から各学校の生徒の英語力を技能別で把握、分析し、学校訪問や授業研究等で指導助言を行うことで、各学校の実態に応じて指導改善を支援する。